

【取扱い厳重注意】

952

平成23年12月1日

## 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 松林 聡

平成23年11月11日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

### 記

- 第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等
- 1 被聴取者  
東京電力株式会社 福島第一原子力発電所 第一保全部  
██████████グループマネージャー 磯貝 拓
  - 2 聴取日時  
平成23年11月11日午後3時30分から同日午後4時10分まで  
(休憩なし。)
  - 3 聴取場所  
福島県双葉郡楢葉町大字山田岡字美シ森8番  
J-VILLAGE JFA アカデミー福島男子寮2階ミーティングルーム1
  - 4 聴取者  
参事官補佐 加藤 経将  
主 査 松林 聡
  - 5 ICレコーダーによる録音の有無等  
 あり  
 なし
- 第2 聴取内容  
事故時の状況とその対応について  
別紙のとおり
- 第3 特記事項  
なし

以上

## 【取扱い厳重注意】

別紙

### 【業務】

- 平成23年3月11日の震災当時、私は第一保全部電気機器（1・2）グループマネージャーの職にあり、復旧班副班長として電源復旧作業等に従事していた。

### 【電気機器グループと計測制御グループ】

- 電源復旧作業に関しては、計測制御グループと連携して作業することが多い。電気機器グループと計測制御グループの作業の違いについて簡単な例を挙げれば、計測機器を復旧するに当たって24Vの電源が必要な場合、バッテリーをつなぎ合わせて24Vの電気を作るのが、電気機器グループの作業であり、電気機器グループが作った24Vの電気を計測機器につなぐことが計測制御グループの作業となる。
- 仮設照明用小型発電機を用いた1号機のドライウェル圧力計の電源復旧作業も電気機器グループが行った。この時は、発電機と電工ドラムを運ぶ作業は電気機器グループが行い、電光ドラムから計器へのつなぎ込み作業を計測制御グループが行った。通常は、計測制御グループが電工ドラムから計器へのつなぎ込み作業を行うが、現場の担当者の駆け引きにより、電気機器グループが電工ドラムからケーブルを引き、計器につなぐことができる状態にすることもある。

### 【バッテリー収集】

- 3月11日夕方に、1号機および2号機の計測機器の電源復旧のために、東電工業からバス用の12Vバッテリーを2個、東京エネシスから6Vバッテリーを4個収集しているが、電気機器グループではこれらのバッテリー収集に関わっておらず、おそらく計測制御グループが指示していたと思う。
- 3月11日夜に、業務用車両からバッテリーを集めている件については、その使用目的も含めてあまりよく分からない。
- 3月13日6時か7時頃、■■■■部長からSR弁開操作のために、120Vの電源が必要となったので、自動車からバッテリーを集めて中央制御室に持って行く旨の指示を受けたが、自動車のバッテリーを集めることになった詳しい経緯については分からない。■■■■部長からの指示後、すでに周りは動き出していたが、1号機の爆発後だったので、電気機器グループのメンバーはケーブル敷設等の電源復旧作業を行っており、人員が少なかった。人員不足により、どうやってバッテリー集めを進めるか考えあぐねていたところ、復旧班班長の■■■■第二保全部長（5/6号担当）が、メンテナンスで「誰か自家用車のバッテリーを提供してくれる人はいないか。」と発話して協力を呼び掛けてくれ、復旧班に関わらず、自家用車からバッテリーを提供してくれる人たちが協力して、自分のマイカーのバッテリーを取り外して中央制御室へ運び込むこととなった。

その後、電気機器グループでは、運び込んだ12Vバッテリー10個をつないで、SR弁開操作の電源を確保した。なお、自衛消防隊の作業から帰ってきた電気機器グループのメンバーに、このバッテリー接続作業を行う旨の指示をした記憶がある。

【取扱い嚴重注意】

そして、3号機のバッテリー接続作業を完了させた後、引き続き、3号機のベント作業がひと段落した後、同日午前中のうちに、2号機のバッテリー接続作業に取り掛かり、3号機と同様に、本部要員の中で協力してくれる人がマイカーのバッテリーを取り外し、1/2号中央制御室にこれらの12V10個を運び込んで接続し、SR弁開操作の電源を確保した。

以 上